

安全運転

ほっと NEWS
2019年4月号

今月のクイズ

平成29年中に起きた自転車事故のうち、自転車と衝突した相手側に過失がある事故は77,875件でした。そのうち相手側が四輪車だった事故件数を、次の中から選んでください。（答えは裏面）

- ①28,759件(約37%)
- ②48,759件(約63%)
- ③68,759件(約88%)



TOKIO MARINE NICHIDO

自転車との事故を回避するためには

「交差する路地から自転車が飛び出してきて焦った」「夜間、目の前に迫るまで自転車に気付かずヒヤッとした」ということはありませんか？

今月は、四輪車と自転車の事故の発生場所や事故類型を通じ、自転車との事故を回避するためにはどうしたらよいのかをみてみましょう。

自転車との事故は、住宅街や道幅が狭い交差点で多発している

平成27年中に起きた四輪車と自転車の事故内容をみると、出会い頭が55%で最も多く、右左折を含めると交差点での事故が85%を占めています（図1）。茨城県のつくば地区周辺で過去に発生した四輪車と自転車の出会い頭事故（200件）が起きたときの、それぞれの通行帯別の構成割合をみてみましょう（図2）。四輪車は、車線による通行区分が無い「区分無し」が最も多く「片側1車線」が続きます。そのとき自転車は「車道」を走っていました。信号機や標識などが整備されていない住宅街の交差点や、道路の幅が狭く見通しが悪い交差点などで事故が起きている様子が見えます。

死亡事故では自転車への追突が多く、とくに夜間は昼間の2倍

四輪車と自転車の死傷事故 1,000 件当たりの死亡事故発生件数（平成 24 年～ 28 年）を事故類型別にみると、追突事故が最も多く、出会い頭や右左折時の件数に比べ約 8 倍も高く発生しています（図3）。自転車側は、後方から迫る危険に気付かず回避行動をとらず追突され、死亡事故に至っていると考えられます。さらに、昼夜別※に死亡事故の事故類型を比べると、追突が占める割合は昼間が 30%で夜間が 62%と、昼間に比べ夜間は構成率が約 2 倍も高くなります（図 4）。視認性が悪くなる夜間の走行は、四輪車側が追突する直前まで自転車に気付かず、減速しないまま衝突して死亡事故に至っていると考えられます。

交差点での事故が85%を占める

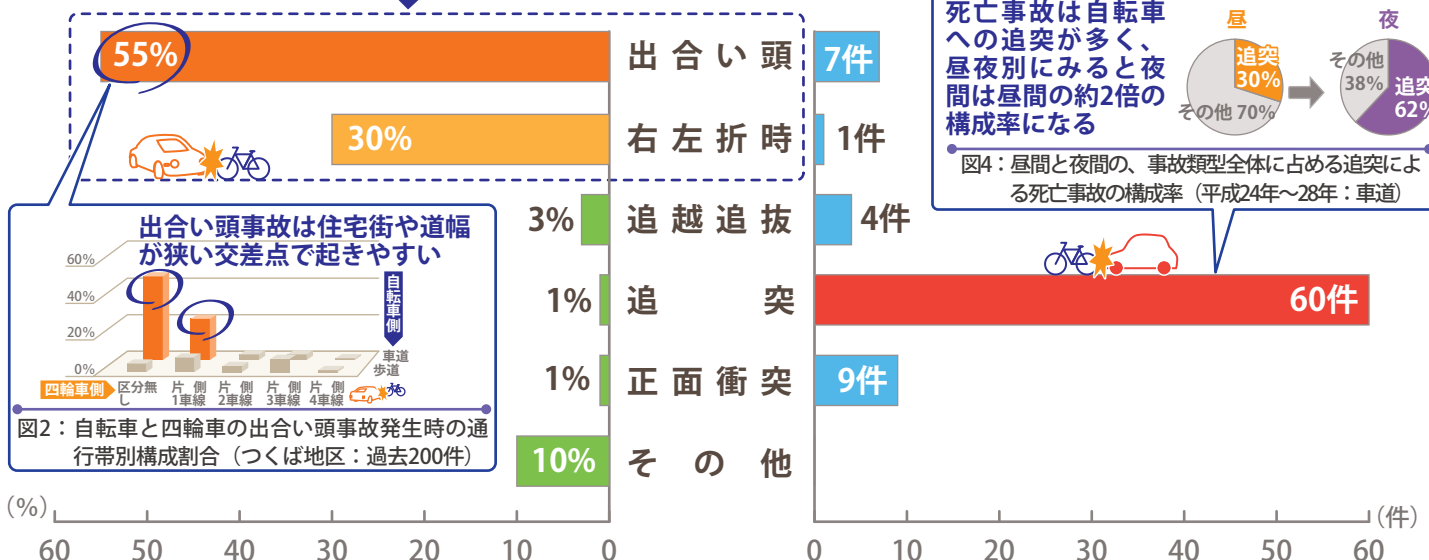


図1：事故類型別の四輪車と自転車の死傷事故の割合（平成27年中）

※「昼間」とは日の出から日没までを「夜間」とは日没から日の出までをいいます。



図4：昼間と夜間の、事故類型全体に占める追突による死亡事故の構成率（平成24年～28年：車道）

図1,2出典：公益財団法人交通事故総合分析センター イタルダイナフォーメーション No.122 平成29年5月「自転車と四輪車の出会い頭事故」より弊社作成

図3,4出典：公益財団法人交通事故総合分析センター イタルダイナフォーメーション No.125 平成30年2月「四輪車対自転車の追突事故」より弊社作成



自転車との事故を回避するためには…



自転車には、乗員を守る車体もシートベルトもありません。四輪車が低速だったとしても、衝突すれば自転車の乗員は投げ出され、打ち所が悪ければ致命的な事故になる危険性があります。自転車との事故を回避するためにどうすればよいのかをみてみましょう。

交差点を通過するときは

平成27年中の自転車との出会い頭事故で、自転車側の年齢層のうち最も多かったのは10代で、約3割※を占めます。学生が多い10代は、交通ルールの知識不足等により、自転車の安全走行に対する意識が低い場合が多く、交差点内の安全確認が不十分なまま進入していると考えられます。20代～70代も1割前後と少なく、通勤通学の時間帯に、先を急ぐ自転車側の信号が赤に変わりそうなのに「まだ大丈夫」と進入したり、信号の無い交差点では「車はこない」と思い込み通過しようとしたりするケースが考えられます。さらに、自転車に子供や重い荷物を乗せている場合、危険を発見して自転車のブレーキをかけても、止まりきれずに交差点へ進入するおそれがあります。

※出典：公益財団法人交通事故総合分析センター イタルデザインフォーメーションNo.122 平成29年5月「自転車と四輪車の出会い頭事故」より

信号のある交差点

信号のある交差点で青信号に変わったら、交差する道路から自転車が飛び出してこないか確認するため一拍置いてから、ゆっくりと発進しましょう。交差点を右左折する場合は、自転車が交差点に飛び出してくる危険性をふまえ、十分な安全確認をしてから徐行で通過しましょう。



信号の無い交差点

信号の無い見通しが悪い交差点では、一時停止の標識が無くても左右から自転車が飛び出してくることを想定し、交差点手前で一旦停止し安全確認を行いましょう。さらに、交差する道路を確認できるところでもう一度停止（二段階停止）し、安全確認を行いゆっくりと通過しましょう。



道路を直進しているときは

最近では、スマートフォンを見たり、音楽を聴いたりしながら自転車で走行している人を見かけますが、周囲に注意が向いていないため、後方から車が接近していることに気付かず、思いもよらない運転行動をとる危険性があります。さらに、子供は後方の安全確認をせずに急に車道に飛び出してくることがあります。また、自車がハイブリッド車や電気自動車の場合は、走行音が静かなので、自転車側が自車の存在に気付かないおそれがあります。

自転車の横を通過

自転車の横を通過するときは、急に飛び出してくる危険性をふまえ、減速して自転車との間隔をあけて通過しましょう。自転車が車道に飛び出す危険性がある場合は、減速して十分な距離をとるか、場合によっては停止し自転車を先に通行させましょう。



夜間の通行

視認性が悪くなる夕方から夜間は、自転車を見つけにくくなります。薄暗くなったら早めにヘッドライトを点けて、いち早く自転車を発見し危険を回避できるようにしましょう。



- 🚲 信号のある交差点では、青信号になり発進するときや、右左折するとき自転車飛び出してくる危険があるので、安全確認を十分に行い、ゆっくりと通過しましょう。
- 🚲 信号の無い交差点では、二段階停止して、十分な安全確認を行ってからゆっくりと通過しましょう。
- 🚲 自転車との距離を十分とり、飛び出しそうになったら道を譲り、追い越すときは間隔をあけて通過しましょう。
- 🚲 薄暗くなったら早めにヘッドライトを点け、自転車を発見できるようにしましょう。

今月のクイズの答え

③68,759件(約88%) 相手側が二輪車は3,607件(約5%)、自転車は2,749件(約4%)、その他は2,760件(約4%)でした。構成比は小数点第1位を四捨五入して表示しているため、合計が100%にならない場合があります。

出典：公益財団法人交通事故総合分析センター 平成29年版「交通事故統計年報」より

ご用命・ご相談は…



東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内 1-2-1

TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590

URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課